

主体的・対話的で深い学びを実現する授業構想【社会科／歴史総合】

1. 対象 1年生

歴史の勉強に意欲的だが、十分な知識が身に付いていない生徒や自分の言葉で表現することが苦手な生徒が多い。また、資料の読み取りについて、教員からの助言や友人からのアドバイスを受けないと、解けない生徒がみられる。クラス全体としては雰囲気も良く、他人とコミュニケーションをとりながら、授業を受けることができる状態である。

2. 単元名「第一次世界大戦と大衆社会」（全7時間）

3. 単元で育成すべき資質・能力の三つの柱につながる単元の評価規準

<p>①知識及び技能</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第一次世界大戦の展開、日本やアジアの経済成長、ソヴィエト連邦の成立とアメリカ合衆国の台頭などを基に、総力戦と第一次世界大戦後の国際協調体制を理解する。 ・ 大衆の政治参加と女性の地位向上、大正デモクラシーと政党政治、大量消費社会と大衆文化などを基に、大衆社会の形成と社会運動の広がりを理解する。
<p>②思考力，判断力，表現力等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第一次世界大戦の性格と惨禍、日本とアジア及び太平洋地域の関係や国際協調体制の特徴などを多面的、多角的に考察し、表現する。 ・ 第一次世界大戦後の社会の変容と社会運動との関連などを多面的、多角的に考察し、表現する。
<p>③学びに向かう力，人間性等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 近代の歴史の変化に関わる諸事象について、課題を主体的に追究・解決しようとしている。

4. 本時の目標

- ・ 第一次世界大戦の性格と惨禍、日本とアジア及び太平洋地域の関係や国際協調体制の特徴などを多面的、多角的に考察し、表現する。

5. 授業展開【 本時 ・ 単元 】

<p>解決したい課題や問い</p>
<p>なぜ第一次世界大戦は世界を巻き込む戦争になったのだろうか？</p>

考えるための材料		
材料A	材料B	材料C
<ul style="list-style-type: none"> ・ 第一次世界大戦と日清・日露戦争の死者数の表 ・ 新兵器の写真 	<ul style="list-style-type: none"> ・ バルカン半島の民族の分布図 ・ サライェヴォ事件の絵 ・ 三国同盟と三国協商を表すヨーロッパの地図 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 産業革命期の工場の写真 ・ 第一次世界大戦期の工場の写真 ・ 第一次世界大戦期のポスター
<p>想定される活動</p>	<p>想定される活動</p>	<p>想定される活動</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 従来の戦争よりも第一次世界大戦の方が戦死者が多い。 ・ 新兵器によって戦争の犠牲者が増え、長期化した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ バルカン半島にはスラブ系とゲルマン系の2つの民族がいる ・ 独・伊・奥の三国同盟、英・仏・露の三国協商ができあがった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国内では女性が軍需工場で働いた。 ・ 植民地の人々も戦争に協力した。

対話と思考（対話を通じた協働的な問題解決のプロセス）
<p>導入（5分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 帝国主義の復習 ・ バルカン半島が「ヨーロッパの火薬庫」と言われていたことを確認する（中学校の復習）。 →資料を使って示す。

その結果、総力戦である第一次世界大戦が勃発したことを確認する。

主題「なぜ第一次世界大戦は世界を巻き込む戦争になったのだろうか？」

展開 1 (15分)

○グループに分かれて考えてみよう！

グループ A, B, Cに分かれてそれぞれの資料で発問に対する答えを考える。

グループ A「第一次世界大戦は今までの戦争と比べ、どんな特徴がある？」

- 死者数が今までの戦争よりも圧倒的に多い。
- 新兵器や塹壕を使ったことで、今までの戦争よりも死者数が出たし、長期戦になったと考えられる。

グループ B「民族間の争いがなぜ世界規模に？」

- セルビアとオーストリアの戦争にロシアが参加したから、世界規模の戦争になった。
- ロシアが参加した後、同盟を結んでいた国や協商を結んでいる国がそれぞれ戦争に参加したから。

グループ C「総力戦とはどんな戦いだろう？」

- 軍人だけではなく、女性や一般人など国民全体で戦う戦争のことである。
- 国内では女性や一般の人の協力があり、植民地の人々も兵隊として戦争に協力していくような戦争のことである。

展開 2 (5分)

○同じ資料を見ている、別のグループと意見を共有しよう！

展開 3 (15分)

○各グループの読み取りを共有しよう。

まとめ (10分)

「なぜ第一次世界大戦は世界を巻き込む戦争になったのだろうか？」

- バルカン半島の民族間の争いをきっかけに起こった第一次世界大戦は同盟国や協商国の参戦によって世界規模に広まった。それに加え、新兵器が出てきたことで犠牲者も増え、戦争自体も長期化した。そんな中で、国内にも協力を求め、アジアやアフリカにある植民地にも協力を求めたため、世界を巻き込む戦争になったと言える。
- セルビアとオーストリアの戦争にロシアが参加した後、同盟を結んでいた国や協商を結んでいる国がそれぞれ戦争に参加し、世界規模の戦争になった。そして、新兵器や塹壕を使ったことで、今までの戦争よりも死者数が出て、長期戦となった。さらに国内では女性や一般の人の協力があり、植民地の人々も兵隊として戦争に協力していくような総力戦となり、結果として世界を巻き込む戦争になった。

学習の成果 (予想される子どものあらわれ)

- ・バルカン半島の民族間の争いをきっかけに起こった第一次世界大戦は同盟国や協商国の参戦によって世界規模に広まった。それに加え、新兵器が出てきたことで犠牲者も増え、戦争自体も長期化した。そんな中で、国内にも協力を求め、アジアやアフリカにある植民地にも協力を求めたため、世界を巻き込む戦争になったと言える。
- ・セルビアとオーストリアの戦争にロシアが参加した後、同盟を結んでいた国や協商を結んでいる国がそれぞれ戦争に参加し、世界規模の戦争になった。そして、新兵器や塹壕を使ったことで、今までの戦争よりも死者数が出て、長期戦となった。さらに国内では女性や一般の人の協力があり、植民地の人々も兵隊として戦争に協力していくような総力戦となり、結果として世界を巻き込む戦争になった